

㊦ (小計 60点)

問一 (12点) 二燭光の小さな電燈だけにされてしまうことで、こわさや心細さからいつもより七畳半の部屋が広く感じられてしまうということ。

問二 (16点) 幼い私にとって、殺風景でこわい場所であった七畳半の部屋が、従兄たちが家に泊まりにくると、にぎやかで楽しいもの変わったということ。

問三 (14点) いつも七畳半の部屋で、蒲団の中にもぐってはいざり回る遊びをしていると、自分の位置や方向が分からなくなるので、意外な場所に出るという不思議な体験をうれしく思う気持ち。

問四 (18点) 懸命に方向感覚を失おうとしても自然とどこにいるか考えてしまう上に、柱時計の音や、従兄たちの足音、しゃべり声などから自分のいる位置や方向が分かってしまうことが多かったから。

㊧ (小計 30点)

問一 (18点) シートンは「オオカミの勝利」に、自然や野生動物を追い込んだ人間がやがてしつぺ返しを受けるというメッセー지를こめたが、それはパリの画壇の人々が信じていた、自然を支配するのは人間の使命だという考え方に反するものだったから。

問二 (12点) 自分を受け入れてくれる場所で、自分自身と個性を大きく育てながら自由に主張を続けていこうということ。

㊨ (小計 10点)

- (2点×5) (1) 誕生 (2) 富  
(3) 鉄棒 (4) 照会  
(5) 二束三文

【出典】

- ㊦ 北杜夫『まつくらけのけ』  
㊧ 今泉吉晴『子どもに愛されたナチュラリスト シートン』